

巻頭言

図書館雑感

芳賀赤十字病院 院長
安田 是和

今回このような機会を頂き、いわゆる読書家とはほど遠い私が図書館について述べることは、甚だ気が重いのですが、ご指名ですので筆をとることに致しました。

昨年は猛暑の日が続き、夏休み中、学生諸君はどのようにお過ごしだったでしょうか。私が中学生の頃は一般家庭には扇風機が普及しだした頃で、この扇風機も今のように静かではなく、震えながら（振動が大きかった）風を送っていたのを思い出します。当時は扇風機を使う事ができるのは父親の関係者などのいわゆるお客様用で、親の目を盗んで扇風機を使ってはよくしかられたものです。そのころ私は仙台市に住んでおりましたが、市内の公立図書館に冷房（エアコン）が入ったというので、図書館に“涼みに行こう”と悪友から誘われ、勉強するでもなく、時々は書庫をみながら夏休みの宿題をやり、後は友人と話をしながら夕方まで過ごしていました。そのうちにこの夏の快適な図書館は多くの学生の知ることになり、朝早くから並ばないと入れない、机から30分以上離れた者は退室させられるという規則ができ、安易な気持ちで利用していた悪ガキ達はほぼ一掃され、大学生や高校生に入れ替わってしまいました。高校

は男子校でしたが、教室には勿論エアコンはありませんので、暑い日の授業中はズボンに水泳パンツへ、上半身は学校指定の白ワイシャツ、両足は水を入れたバケツの中という強者もいた教室風景でした。バンカラを誇りとするような当時の男子高校で、教師の多くも高校の先輩であったためか時に注意されるぐらいでしたが、今では当然許されるものではないでしょう。友人の中には夏休み中の勉強のため図書館に通い、他校の女子高生と出会い、秋に入り2学期（当時は3学期制）の成績はガタ落ちで職員室に呼ばれて叱られたようですが、周囲の友人は面白おかしく囃し立てていました。しかし彼はその後某有名大学の理学部に入学し、学生結婚し幸せに暮らしています。

話題がそれてしまいましたが、私が図書館を図書館らしく利用を始めたのは大学に入学してから後半の5～6年生になってからです。大学の図書館は、①静かであること②冷暖房完備であることが第一でしたが、そのうちいくつかの分野に興味をもつようになり、はじめて本当の図書館の利用の仕方を知ようになりました。当初は図書室の司書さんに利用の仕方を教えてもらいながら本や雑誌を探しました。その後、医師となり研究を始めた頃は最も図書館を利用した時代であったように

YASUDA Yoshikazu

思います。しかしインターネットが普及するにつれ、また臨床に費やす時間が増えるにつれ図書館に行く間もなくなり、論文検索は自分の机の上のみの作業となっていきました。一方大学の図書館も、蔵書は年々増え増築をしましたが蔵書スペースが追いつかず一部はマイクロフィルムで保存されていたものもありましたが、これは殆ど利用されないまま電子記録媒体の時代に移行したように思います。現在、電子ジャーナル導入の時代が到来し、膨大化する論文やデータは紙媒体では保管することが大学図書館でさえ不可能になりつつあります。

さて地域中核病院での図書室のありかたも変わらなければいけない時代が来ています。限られた病院スペースのなかで限られた雑誌や書籍の購読は、利用率の低下にもなり、保管することも困難ですが、一方で専門医や認定看護師、専門薬剤師など病院の全職種の教育環境整備が急がれます。増え続ける多くの情報に地域の病院から継続的にアクセスするに結局、病院内のインターネット環境整備と電

子ジャーナルを導入する以外に良い方法はなさそうです。将来の病院図書室は、現在のよ様な本棚は最小限にし、検索のためのコンピュータを数台設置するような形になりそうですし、既に導入を進めている病院も多数あると聞いています。現在、日赤図書室協議会や日本病院会図書委員会、電子ジャーナルの経験豊富な病院図書室の運営などを参考にさせて頂き、遅ればせながら当院における電子ジャーナルの導入プランを実行しつつ試行錯誤しています。

“紙のにおいが懐かしい”と愛読家から嘆息が聞こえますが、これからの病院図書室はややクールな環境になるのかもしれませんが。当院は2年後に移転・新築を計画しています。新病院での図書室は、昔ながらの暖かい心地よい雰囲気は継続しつつ情報力を強化した図書室、勉強するばかりではなく職員相互の交流の場として暖かさも併せもった図書室の構築をめざします。ロマンスも生まれるような環境だと良いですね。